



2018-2019年度 主題

国際会長 : Sangbong Moon “Yes, We Can Change”  
 「私たちは変えられる」  
 アジア太平洋地域会長 : “Courage to Challenges”  
 田中 博之 「挑戦への勇氣」  
 東日本区理事 : 宮内 友弥 「為せば、成る」  
 湘南・沖縄部長 : 佐藤 節子 “No challenge, No fruit.”  
 「心を元気に 絆を深め合える  
 ワイズを目指そう！」  
 クラブ会長 : 岡田 勝美 「楽しく活動し、仲間を増やしていこう！」



今月の聖句

霊の結ぶ実 は 愛であり、喜び、  
 平和、寛容、親切、善意、  
 誠実、柔和、節制です。

(教師の友、  
 11月のまねきのことば)

2018年11月本例会

日時 11月23日 (金) 15:00-  
 場所 かけはし都筑 (センター南)  
 司会 久保勝昭、受付 鈴木恭子

～プログラム～

- 1) 開会点鐘 会長
- 2) ワイズソング・ワイズの信条 一同
- 3) 今月の聖句とお祈り 鈴木茂
- 4) ゲスト・ビジター紹介 司会
- 5) 会長挨拶 岡田会長
- 6) シンキングデイ 鈴木茂
- 7) YMCA報告 山中館長
- 8) 閉会点鐘 会長
- 9) クラブ懇親会 17:00～  
 @ガブリエル

※当日は、鶴見エキステンションのメンバーの参加が予定されています。

※12月の事務例会 (12/11) 終了後、クラブのクリスマス会をPotluck (持ち寄り) で行います。

お友達などお誘いの上ご参加下さい。  
 なお、12月は横浜YMCAのクリスマス会 (12/20 @湘南とつかYMCA) に合流しますので本例会は開催いたしません。ご注意ください。

今日の巻頭メッセージ

辻 剛

「5人クラブ」をリスペクトしよう！

**昨**年、国際議会が、「新クラブ設立に必要な最少人数を5人とすること」を決めました。私たちは、「5人クラブ」の持つ意味について、新クラブを設立するときのハードルが下がったなどと矮小化して受け止めるのではなく、もっと真剣に考えるべきだと思います。

国際議会は、クラブ設立の最少人数をなぜ「15人」や「10人」でなく「5人」にしたのでしょうか。国際書記長の西村隆夫さんは、以下のように言っています。『2022年のゴール達成の為にクラブを増やしていくのに、是非新しい支援策が必要ということで、5名でも潰れるクラブはすぐにつぶれるが、素晴らしい活動をするなら、すぐにメンバーは増えていく筈という可能性に賭けた。すでに5名でのチャーターも増えてきています。伝統的な例会でのクラブの継続、成長は難しい時代と分かっているなかで、5名のクラブができることを見守っていくことで新たな成功モデルが出てくることを期待しています。』

(注)「2022年のゴール」：2022年時点の会員数を世界100ヶ国で少なくとも5万人以上に増強する。

**「5**人クラブ」は、これまでのクラブ運営に対する考え方・常識を根底から変えてしまうかも知れません。長い間「クラブ設立の必要最少人数は15人」のもとで培われてきた運営の仕方が今後も通用するのか、運営だけでなくワイズメンズクラブの今後の在り方についても影響を及

ぼす可能性大です。5名でスタートしてもクラブ設立後も会員増強に努力することは無論のこと、その他、これまで取り組んできたクラブの支援活動、事業等の在り方も見直しを迫られると思います。

当然のことながら、これまでと同じ発想、運営方法では「5人クラブ」は永續しきできないし、十分な活動もできないでしょう。せっかく新クラブを設立してもすぐに解散に追い込まれるようでは意味がありません。「5人クラブ」の運営については、未知の部分が多く、難しい作業になると思いますが、現存の「クラブ運営マニュアル」を見直し、「5人クラブ運営マニュアル」を早急に作成すべきと考えます。実際に「5人クラブ」ができて走りだせば、そのクラブのメンバーが色々な対処方法をそれぞれ on the jobで会得していくでしょう。最終的には、それらのノウハウを加味して、「マニュアル」を見直し充実させていけばよいと思います。

**今**でも東日本区において15人以下のクラブが多いことを嘆く風潮がときどき見受けられますが、「グッドスタンディング」(これまで15人以上の会員を有し、活動しているクラブを指すと捉えられてきた。)ということを教えられてきたので、なかなか意識を変えることは難しいのかも知れません。

(注)「クラブが活動中=in good standing」であるとは、報告済みの会員数の100%分の区会費、地域会費なら



(1ページより)

びに国際会費を、直近の過去3半期を通して支払ったクラブを意味する。(国際憲法ガイドライン410)

しかし、これからは15名以下のクラブの存在を嘆くような意識は早急に改め、「5人クラブ」は立派な一人前のクラブと

して認知され、リスペクトされなければならぬと思います。

国際投票における会員数5~14名のクラブに対する特例(救済措置)も来年から復活することが決まっています。今後、沢山誕生するかも知れない「5人クラブ」に肩身の狭い思いをさせてはいけぬと考えます。むしろ、この「5人ク

ラブ制」は、少子高齢化、人口減少が進む日本のワイズにとっては大変有効なルール変更ではないかと考えています。東日本区がこれらのルール、環境の変化に合わせて戦略や組織を主体的に変革できればワイズメンズクラブはゴーイングコンサーンとして必ず存続できると信じています。(完)

第21回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン参加報告

去る10月20日(土)、絵に描いたような秋空のもと、第21回目を迎える横浜YMCAのチャリランが、「みなとみらい21」の臨海公園を会場に行われました。我がつづきクラブはこれまでと変わらず、横浜クラブ共々、受付とお弁当配りの大役が割り当てられ、第1陣は朝の8:00には会場に集合、ボランティア開会式に引き続き所定の作業を粛々と執り行いました。

午前9時45分、全ての準備も整い、いよいよ大会開会式です。臨海公園潮入りの池を取り巻く観客席には、参加選手、ご家族、関係者でいっぱい、佐藤節子大会運営委員長(厚木クラブ)の力強い開会宣言で開幕。可愛いポンポンガールズ(?)の演技や準備体操などが行われ、いよいよチャリラン開始。

先ずは、2-3歳児も参加するクラスの

ランは、大泣きする子、伴走者の腕にぶら下がっているだけの子、可愛いコスプレを翻して走る子など様々。見る方も大笑いの内に無事終了。

その後は、もう少し年上の子どもや大人、障がい者も交じっての熱戦が繰り広げられ、無事競技終了。

その間、我々は、恒例となった崎陽軒のシュウマイ弁当とお茶900個余りを参加者に配布、さらに走路のガイド役、弁当ガラ回収などを行い、無事任務を全うできたものと思います。

今回のチャリランは、出場チーム109を数え、寄付金(@50,000円)総額は545万円に上りました。収益金はYMCAを通じて、主に、障がいのある子供たちの諸活動支援に使われます。

この季節、全国各地のYMCAで同様のイベントが開催されており、障がいを持つ子供や大人たちへの支援の輪がますます広がってゆくのは素晴らしいことだと思われ、我がクラブもその中に参

加できることを心より嬉しく、また誇りに思っています。また、例年と同じく、本年も2チームのスポンサーを務めました。

来年の参加を誓い、帰路に就いたようには見えましたが、我がクラブの場合これでプログラムが終わったわけではなく、これまた恒例の、ドックヤードにある「ビール博物館」に繰り出して、意義ある一日を改めて噛み締め、仲間との絆をさらに強固なものとした。

(その際の写真以下)

当日参加のクラブメンバーは以下：今城T、岡田K+M、久保、鈴木K、辻Ts、横田の7名(今城T 記)



(クィーンズスクエアのベンチにて、「レゴ小父さん」と)

つづきクラブ恒例 秋の移動例会 鎌倉～三浦の旅

岡田 美和

日時：2018年10月26日（金）

9:00～19:00

場所：鎌倉：三浦半島方面

実行委員：横田、久保、

岡田 K・M

参加者：今城 T・H、岡田 K・M、

久保、胡麻尻、杉本、

鈴木 K・S、福島、三木、

横田（12名）

ゲスト：高松満至 三木紀昭

臼田隆二（運転手）

（合計15名）

恒例の移動例会は、毎度お世話になっている臼井さんが運転するマイクロバスに乗り込み、鎌倉のお寺、三浦半島の「三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ」を始めとし、城ヶ島、三崎港を巡りました。午前9時、センター南を出発後、直ちに例会が始まり、車内で「今月の聖句、お祈り」につづき、「ワイズソング、ワイズの信条」を皆で唱和しました。

以降、夕方午後7時に再びセンター南に戻ってくるまでの間、好天に恵まれ、よく歩きお喋りをし、マグロ三昧で盛り上がった一日でした。

先ず鎌倉では、禅とお茶と竹林庭

園の報国寺を訪ねました。竹の生い茂る幽玄感溢れる庭園の探索を楽しみました。10月桜やりんどうが咲き、緑の竹林によく映えていました。

その後一路三浦半島を南下、本年より横浜YMCAが運用を開始した「三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ」を訪問、横浜クラブの金子さんならびにYMCAの鴨下館長他のお出迎えを受けました。鴨下館長より広い施設の説明を受け、その後、各自三々五々見学を行いました。改装が終わった「ヒルサイド」の3階から見える一面の畑は、大根やキャベツが所狭しと植えられていました。歩いて浜へ下り、久しぶりの砂浜を踏みしめた後は、大食堂で用意して頂いた昼食（カレーorスパゲッティ）をいただきました。

折角の三浦半島旅行言うことで城ヶ島まで足を延ばし、城ヶ島公園では静かな松並木を散歩したり、展望台に上って皆で「城ヶ島の雨」を歌ったりもしました。中にはスケッチを楽しむメンバー、陽光を浴びながら一人ベンチでウイスキーをちびりとやる輩もいたり、それぞれに秋晴れの城ヶ島を堪能したことでしょう。また、「城ヶ島の雨」の作詞者、北原白秋の歌碑の前でも、

しみじみとした思いにふけることができました。

いよいよ、本プログラムの最後、メインイベントともいべき三崎漁港訪問と相なりました。それぞれ、漁港内の土産物屋を冷やかしたり、船着き場で糸を垂れる釣師と晩御飯目当ての猫たちとの駆け引き楽しんだり写真撮影をして過ごし、いよいよ 夕食となりました。場所は下見隊が決めてくれた魚屋経営の食堂で、三崎ならではのマグロや地魚を堪能しました。地元の魚屋さんならではのマグロ三昧をつまみにビール、日本酒、ワインも楽しむことができました。

その後は一路出発点のセンター南へまっしぐらとなりましたが、夕食時の一杯のせいか、それぞれ静かに眠りにつき、何処をどう通って帰り着いたか運転手の臼井さん以外も知らぬ有様。

何れにせよ、ワイズの仲間と大いに親しく楽しく語り、有意義な移動例会でした。体調不良等で参加できなかった仲間は残念でしたが、このように場所を変えるのも新たな活力を得ることができることを実感しました。是非ともこれからのワイズの活動につなげていきたいと思いました。（完）



「竹の寺」 報国寺にて	GEVの ゲートで	お仲間
三浦GEVで の昼食	城ヶ島公 園の展望	太平洋

## 11月事務例会報告

岡田 美和 記

日時： 11月13日(火)  
18:00～20:00

場所： 田園都筑教会

出席者： 今城 H、岡崎、  
岡田 K・M、久保、  
胡麻尻、鈴木 K・S、  
辻 Ts、横田 (10名)

ゲスト： 高松満至

～議事内容～

1. 開会点鐘 岡田勝美会長
  2. 会長挨拶 岡田勝美会長
  3. 報告：前回事務例会以降今週までの各種活動の報告がありました。
  4. 協議事項
- ◇ ラナース (デンマーク)・プロヴディフ (ブルガリア)・つづきの3クラブトライアングル IBC 契約の解消申し出の件。ラナースクラブより以下の理由によるトライアングルIBC解消の提案があった。
- ①ラナースクラブには、IBC締結当初のメンバーがLR氏のみ
  - ②年一回の交流 (カード交換) は少なすぎる (プロヴディフは毎年訪問)
  - ③クラブメンバーが高齢化 (80台) した今、地球の反対側との交流は可能性が低い
  - ④クラブ活動は活性化しており、創立55周年を迎えて市内に新たに設立された2つのクラブと

の交流に力を注ぎたい。

IBC 契約当初は相互訪問、記念品・カード交換等の交流があったがデンマーク、ブルガリアという距離感もあり、この度の申し入れを妥当として受け入れることとした。今後の解消連絡は鈴木 S、事務手続きは辻 Ts が担当する。

- ◇11/17(土) 第2回部評議会：田園都筑教会のバザーと重なるため、参加者は今城 H・T、岡田 K、鈴木 S のみの予定。
- ◇移動例会の会計報告：余剰金はクラブ会計へ入金。
- ◇12/11 (火) 事務例会 (クラブクリスマス会)：会費千円、飲食類は持寄りとする。(Podluck)
- ◇2019.5 富士山例会の横浜クラブとの合同の件：前向きに進める。
- ◇2019.4 本例会の卓話者：他クラブより広く候補者をさがす。
5. 今後の予定
- ◇11/15 (木) 東日本被災地支援活動 (みやま荘、つばめの杜保育園) 辻 Ts、久保、石丸さん、現地より村井さん、清水さんが参加
- ◇11/17 (土) 第2回部評議会 14:00～16:00 中央 Y M C A
- ◇11/23 (金) 15:00～ 本例会 (シンキングデイ：鈴木 S 司会：久保 受付：鈴木 K) (鶴見クラブ (仮称) のメンバー候補者

が出席予定)

- 17:00～ガブリエルにて交流会
- ◇11/28 (水)～12/4 (火) ささえ愛福祉週間でのパネル出席
- 11/28 (水) 9:30かけはし都筑集合 (今城、岡田 K、辻 Ts、横田が参加予定)
- ◇12/1 (土) 北 Y M C A 運営委員会
- ◇12/4 (火) Y-Ys 協議会 (つづきクラブが進行担当) 19:00～中央 Y
- ◇12/11 (火) 事務例会 (クラブクリスマス会 持寄り 会費千円)
- ◇12/20 (木) 横浜 Y M C A クリスマス会 (12月本例会合流)
6. 各担当よりアピールと予定
- ◇みんなの家：C O C O の集い (今城 H 2019.2/12)、P O P P Y (鈴木 K 11/21)
- ◇スプーン：夕食会 (12/17)
- ◇社協ボランティア交流会 (岡崎 11/21)
- ◇ワイズ在京新年 (1.5) 久保、鈴木 S、辻 Ts が参加予定
- ◇使用済切手集め (今城 H)
7. 閉会点鐘 岡田勝美会長

※閉会後は中華料理「一心」にて懇親食事を開催。

### 《トピックス》

～赤い羽根共同募金運動へ協力～  
都筑区社協による、助成金受領団体等への要請に応え、当クラブも、街頭募金活動に協力しました。横浜つづきクラブの5名は去る10月15(月) 16:00より約一時間、センター南駅前での街頭募金に参加しました。共同募金には「10/1～12/31の赤い羽根」と「11/1～12/31の年末たすけあい」があり、ともに県の共同

募金会が主催しています。

つづきクラブからの5名 (今城 T・H、横田、岡田 K・M) も、人通りの多い夕方の駅前で大声を出しました。嬉しいことに小学生、中学生の男子が立ち止まり、戻ってきて募金をしてくれたことです。 (岡田勝美 記)



# 北YMCA便り

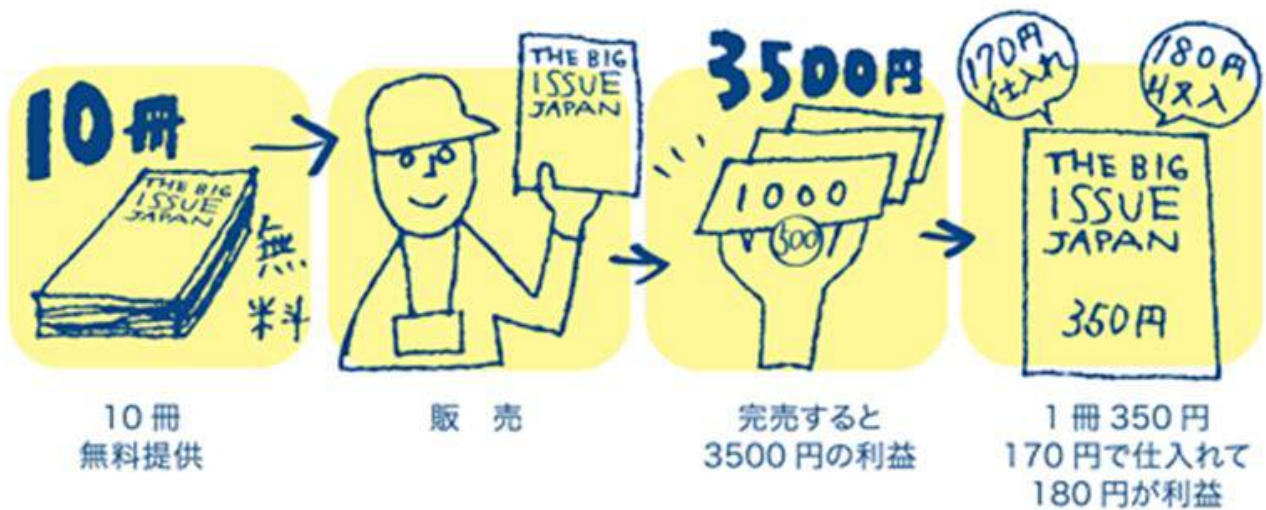
北Y館長 山中 奈子



11月3日(土)秋晴れの中行われた「横浜北YMCAまつり」では、多くの皆様にご協力いただき、心より感謝いたします。今年度新しくはじめた「玉こんにゃく」「トン汁」「ビッグイシュー販売」など様々な工夫がされました。収益金も50万円をこえ、皆様のご協力に心より感謝いたします。さて、今回運営委員の茂木信さんから提案がありましたビッグイシューについて少しお話をしたいと思います。ホームレスの人の救済(チャリティ)ではな

く、仕事を提供し自立を応援する事業です。ビッグイシューの原型は1991年にロンドンで生まれました。定価350円の雑誌『ビッグイシュー日本版』をホームレスである販売者が路上で売り、180円が彼らの収入になります。最初の10冊は無料で提供し、その売り上げ(3,500円)を元手に、以降は1冊170円で仕入れていただく仕組みです。販売者は、現在路上で生活しているか、あるいは安定した自分の住まいを持たない人々です。住まいを

得ることは単にホームレス状態から抜け出す第1歩に過ぎません。そのため、販売により住まいを得た後も、必要な場合にはビッグイシューの販売を認めています。彼らの禁止事項の中には「寄付をしてもらってはいけない」「手伝ってもらってはいけない」など様々な厳しい条件があります。しかし、それを一つひとつクリアしながら自立への一歩としているのです。今度街中で見かけたら、ぜひ購入してみてください。(了)



## 《ミニ報告》

～第24回福祉農園に参加して～  
「秋の一日、障がいのある人もない人もみんな一緒に楽しみましょう！」  
10月21日(日)とても良い天気恵まれて、福祉農園に参加しました。いもほりの他、多くの模擬店、野外ステージがありにぎやかな催しです。毎年のようにアスタP Cも出店していました。素敵な手作り製品、新鮮野

菜、餅つきなどもありました。ステージでは障がい当事者による太鼓やバンドの演奏が続きました。都筑社協の方、ボランティアの方々とも親しくなれました。参加者は採ったおいもを袋に入れ、楽しそうに帰っていきました。つづきクラブ参加者は岡田K・Mです。

岡田美和 記



### 《トピックス》

～横浜北YMCAまつり～  
「笑顔につながる小さな一歩」  
11/3（土）10:00～15:00  
横浜つづきクラブの参加者は岡崎、岡田 K・M、久保、鈴木 K・S、辻 Ts、横田、林 S さんの9名でした。チャリティーバザー、コーヒー、綿菓子などで活動しました。漫画家であったご主人を亡くされ、ブランドのズボンは何本も献品してくれた人がいました。当日会場に来られてご主

人を偲ぶお話を伺いました。献品にはご提供者それぞれの思いがあることを感じました。千円札で500円の品を買われ、お釣りは募金にしてくださいという方もいました。50円、100円が集まると大きな募金になることを改めて知りました。

旧ノースクラブの方々、その他ボランティアの皆さんとも楽しく交われました。バザーの集いは「みつかる。つながる。よくなっていく。」まさにそのものです。

（岡田美和 記）



### 《転載記事》

11月号「横浜青年」(YMCAニュース) に当クラブのYou & I コンサートの記事「障がいのある人とともにコンサート」が掲載されるのでここに転載します。同コンサートも8回目となり、地域の方々の間で認知されるようになったと共に、パートナーである北YMCAを始め、周辺のYMCAから多くのスタッフがボランティアとして参加して下さるようになりました。本当にうれしいことです。

(編集子)

青 年
2018年11月1日

佐藤大祐団長率いる横浜室内合奏団・歌劇団の演奏や歌劇「マッチ売りの少女」などを350人の参加者が楽しんだ。

当日の運営は、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ、横浜YMCAをはじめ、地域の団体などにより行われた。

障がいのある人とともに音楽を楽しむ理解を深めていこうと、2011年から横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの創立5周年を記念してはじまった「You&Iコンサート」(同運営委員会主催)が、9月27日に都筑公会堂で開催された。

### 認知症カフェをスタート 安心して過ごせる居場所



▲ジャズの音色にほっとした一時を過ごした認知症カフェ

去る9月22日、認知症カフェ「つながるcafe」がオープンしました。リハビリ専門の作業療法士を養成する横浜YMCA学院の作業療法士を養成する横浜YMCA学院の作業療法士が、認知症の方とご家族が安心して過ごせる居場所や作業療法士からの情報提供の場として、中央YMCA内に設置したものです。初回は、二十名をこえる参加者があり、ジャズの生演奏が流れる中、楽しい時間を過ごされました。どなたでも気軽に参加でき、申し込み等は不要です。

開催日時…毎月第三土曜日14-16時  
場所…中央YMCA(関内)8F  
参加費(茶菓代)…100円

～編集後記～  
▷秋も深まり、朝夕の寒さが身に沁みます▷9月末のYou&I以降、10月はチャリランやクラブの移動例会など、盛り沢山のプログラムがありました。皆で力を合わせ無事乗り切ってくれたことを感謝しています。また、これから年末までは、クリスマスもあり、更に夕な日々となります。健康には留意しつつ頑張りましょう▷長年続いたデンマークのランズクラブとのIBCが終わりを迎えました。国際交流の難しさを今更ながら感じさせられた出来事でした。

(編集子)

(10月のデータ)

例会出席	15名	在籍会員数	17名	各種記録	前月	累計
メンバー	12名	月間出席数	12名	使用済切手	0g	0g
ビジター	0名	メーキャップ	2名	スマイル	0円	13,346円
ゲスト	3名	月間出席率	82%			